

## 刊行にあたって

編集委員長

玉野 和志

せたがや自治政策研究所の活動の一環として、2008年度より刊行しております学術機関誌『都市社会研究』もおかげさまで第14号を刊行することとなりました。特集に寄稿していただいた先生方をはじめとして、論文、研究ノート、活動報告に投稿いただいた皆様のお陰によるものと存じます。また、編集にご協力いただいた編集委員会の委員や査読を担当された方々、編集委員会をサポートしていただいている事務局にも、心より厚く御礼申し上げます。

本誌刊行の目的は、一つには学術研究の発表・発信、またそれを基礎とする政策形成の基盤づくりにあります。いま一つの目的は、実践的な内容を持ち、公共の利益に資するような研究の発表・発信の場とすることです。従来学術研究誌にはみられない実践的かつ公共的な性格を併せ持つ、地域発の学術機関誌をめざして発刊したものです。

本号の特集テーマは「都市とレジリエンスーコロナ禍の市民生活」としています。近年、わが国では地震や洪水をはじめとする自然災害が頻発しており、今後想定される首都直下地震のような、人が多く集まる都市での災害への対策は必要不可欠です。こうした中で注目されているのが、「レジリエンス」です。レジリエンスには「柔軟性」、「強靱性」などの意味があり、災害分野においては災害リスクの縮小や、被害からの復興対策を考える上で重要な概念です。新型コロナウイルス感染症の区民生活等への影響が長期化するなか、今後想定される都市災害における様々な課題を整理し、防災・災害対策や復旧・復興といった施策展開への活用を目的とし、本テーマを設定しました。

研究者や専門家、自治体職員の方々はもちろんのこと、多くの世田谷区民の方々に本誌を手にとっていただきたいと願っております。さらに、都市社会を研究対象とする全国の若手研究者が投稿論文の本誌への掲載を名誉と考えるような機関誌に育っていくよう願っています。

最後に、今後とも投稿者、読者の方々をはじめ、皆様のご理解ご協力を賜りますようお願いいたします。第14号刊行のご挨拶とさせていただきます。